

「クリーンバスケットクリーン・ザ・ゲーム」の実現に向けた協力について



JBAが推進している「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」の実現に向けて、ミニバスケットボールに関わる指導者、保護者などの皆様にご協力をお願いします。

ミニバスケットボール本来の「友情・ほほえみ・フェアプレイ」の精神を重んじ、「ゲームで勝敗を競うのは、子どもたちにとって非常に魅力的なものではありますが、何が何でも勝つという考え方を子どもたちに教えこんではいけないのです。そして、必要な厳格さと寛容さを併せ持ち、広い視野に立って規則を理解し、子どもたちが何を身につけるべきかを考えてほしいと思います。」ともかつてのミニバスケットボール競技規則には記載してありました。

今一度わたしたち、指導者は、このことを肝に銘じ、子どもたちをよりよく成長させるために、ミニバスケットボールの指導を行わなければなりません。そのために、ゲーム中でのベンチのマナー等について下記の内容を十分に理解し、ご協力をよろしくお願い致します。

これらのことは公式戦以外の大会についても共通であることはもちろんです。

1. 監督・コーチのベンチのマナーについて

次のようなことを行ってはいけません。

◎審判（テーブルオフィシャルズを含む）に対して、不作法に話しかけたり、大きな声を出すこと。

◎対戦相手を挑発したり、威嚇したりすること。

◎プレイに対して大声を出したり、審判の判定に対して「ファウル!」、「歩いた!」等の大声を出したり、継続的な異論表現、もしくは大きなジェスチャーによる過激なアピール。

◎ボールやリング、テーブルや椅子等の器具を乱暴に扱ったり、たたいたり、蹴ったりすること。

◎ゲーム中にベンチエリアを越えたり、コートの中に入ること。

（プレイヤーの負傷等、特別な場合を除く）

◎ベンチの内外を問わず、プレイヤーに対して暴力的な行為（言動・行動）を行うこと。

例えば「バカ野郎!!」、「辞めてしまえ!!」、「下手くそ!!」等のプレイヤーを侮辱する言動も同じです。

◎観客に対して、無作法に振る舞ったり挑発するような言動をとったりすること。

◎ベンチで、ビデオ・写真撮影、携帯電話を使用すること。

◎ゲームを安全かつスムーズに運営するために、審判が出した指示に従わないこと。

◎不潔な格好、サンダルや裸足などで指導をすること。

◎ふさわしくない服装で指導すること。（シューズのかかとを踏む、帽子をかぶる、サンングラスをかける、肌の露出の多い服装など）。

このような行為に対して、審判は厳格に対処をします。また、内容によっては、大会本部としても注意や警告のみにとどまらず、出場停止等の重い処分をすることもあります。

※やむを得ない事情がある方は、事前に大会本部に申し出て下さい。

2. 審判・MC・テーブルオフィシャルズへの支援について

ミニバスケットボールは、審判・MCやテーブルオフィシャルズが未熟な場合があり、ゲーム中に判定や処置などにミスが起こることが考えられます。しかし、ベンチや観客はそれを非難することなく、同じミニバスケットボールをしている仲間として寛容に対処すべきだと考えます。しかし、審判やテーブルオフィシャルズは、その寛容に甘んじることなく、プレイヤーやベンチがその力を最大限に発揮できるよう、常に普段から技術の向上に向けて努力すべきであることは言うまでもありません。

3. 指導者の暴力的行為について

ゲーム会場だけでなく、そのチームがゲーム中か否かを問わず、プレイヤーに対して指導者が暴力的行為を行うことは絶対にあってはなりません。これは単に、自チーム内の問題ではなく、児童の人権擁護と健全な育成・指導の点から、ミニバスケットボール全体に対して、大きな誤解を招く恐れがあるからです。暴力的行為が認められた場合、大会本部はそのチームに対して厳格な処置を行います。

4. 保護者の応援について

ベンチ外の保護者の応援は、ミニバスケットボールの性格上、必要不可欠なものといえます。しかし、興奮のあまり、時に自チームあるいはわが子の応援に留まらず、自チームのプレイヤーや相手チームの中傷や審判への罵声が聞かれることもあります。このベンチ外の応援についてはルール上、何ら規定はありませんが、ミニバスケットボールにおいては、児童の関わりにおいて、それを見逃すことはできません。また、チームの品位や、指導者の資質まで疑われることにもなります。このような点から、各チームの指導者はベンチ内外の応援についても、十分な配慮をお願い致します。